

2013(H25).06.16

## 県総体(兼)国体予選第3Gの決勝は7-54で勝田工高に完敗

6月16日(日)午前11時30分、堀原運動公園ラグビー場で、平成25年度県総体(兼)国体予選の第3グループ決勝戦が行われ、日立一高は前半7-19、後半0-35、計7-54で、勝田工高に完敗しました。



昨夜からの雨は、試合開始前後にはほぼ上がり、昨日までの暑さはどこへやら、グラウンドに水たまりもなく、絶好のコンディションでキックオフを迎えました。(日立一高としては、カンカン照りで、相手FW

がバテバテになることを期待したのですが、)

試合開始直後から自陣深くに攻め込まれ、3分にゴール前モールからFWに飛び込まれ、先制トライを喫します。(0-7)、12分にもゴール前スクラムから、予めブレイクしていたNo.8に持ち込まれ、(0-12)とリードを広げられました。

日立一高は、敵陣に攻め込んでもラインアウトのスローイングミスがあったり、密集でターンオーバーされたりでなかなか得点できませんでしたが、16分には敵陣22m 付近のラインアウトからプロップ1番谷がディフェンスの合間を縫ってインゴールに走りこみトライ、ゴールも決まって(7-12)

その後は、一進一退の攻防が続きましたが、前半のラストワンプレイで自陣からのアタックが裏目に出て、ターンオーバーされ、トライを許し、(7-19)で前半終了。(無理にアタックせず、タッチに蹴り出しておけば、トライ数1-2のままハーフタイムだったので、悔やまれるところです。)



後半はディフェンスが甘くなり、タックルミスも続出して一方的な展開、5本のトライを奪われ、終わってみれば(7-54)の大差。公式戦で勝田工高に敗れたのは、3年前の県総体兼国体予選のBブロック決勝で0-24で敗れて以来です。

勝負の世界では、「勝ち」に不思議の勝ちあり、「負け」に不思議の負けなし。」と言いますが、負けるときは、負けるべくして負けるものです。

先制トライを奪って主導権を握る、前に出て厳しいディフェンスをする、地域と時間を考えながらプレイする、等々こちらがやらなければならないことを、逆に相手にやられてしまったということでしょう。

また、春シーズンの勝田工高は、バランスのとれた素晴らしいチームでした。飛田監督はじめ部員の皆様のご努力に、心から敬意を評します。

春シーズンの公式戦は、これで一段落です。1年生の頑張りもあり、なんとか全試合を戦い抜くことができました。

関係者の皆様には、ご支援、ご声援をいただき、誠にありがとうございました。今後とも日立一高ラグビー部をよろしくお願いいたします。

さて、秋に向けては、さらなる地力の向上と、改めて部員の確保に取り組む必要があります。1年生・2年生が各5人の現状では、3年生引退後の新人戦に単独チームで出場することができなくなります。部員を含め、関係者一同、真剣に取り組んでいきましょう！！

※試合終了後、部員と保護者は、ここ数年恒例になった焼肉ツアーに行きました。

